

子ども時代の旅行経験が大学生の海外旅行意欲に与える影響に関する基礎的研究

東北工業大学 学生会員 ○大槌 彩奈
東北工業大学 正会員 泊 尚志

1. はじめに

2000 年代後半以降に日本の観光をめぐる新たな課題として「若者の海外旅行離れ」が認識されるようになった。日本人 20 歳代の出国者数は 1996 年に 463 万人と史上最高値を記録したが、その後減少が続き 2008 年は 262 万人と半数近くまで落ち込み、2015 年は 285 万人となっている。同期間に 20 歳代の人口が減少していることが第一の原因と考えられる。また、人口に対するのべ出国者数の比率である「出国率」を長期的に見ると近年割合は減少もせず増加もしていない。一方で、外国人観光客数は順調に増加し、2015 年には訪日外客数 1973 万人が出国日本人数 1621 万人を逆転しインバウンド観光が急速に拡大している。

2020 年で 4000 万人、2030 年には 6000 万人という目標を掲げておりインバウンド観光をさらに振興するには、日本人の国際感覚の向上が重要であると考えられるが出国率に変化が見られない。国際相互理解の観点から、観光立国に求められる多様な価値観への寛容性の育成や豊かで活力ある地域社会実現のため日本に来てもらうだけでなく日本人が現地を体験し旅行客目線の理解を進めることが必要であると思い、アウトバウンド観光振興はインバウンド観光振興同様に非常に重要であると考えられる。また、次代を担う若者のアウトバウンド観光促進は観光政策や経済社会のグローバル化の観点からも重要であると考えられる。

2. 既往研究の整理

森下¹⁾は、旅行経験の多いグループは旅行の目的を比較的明確に持っている割合が高く、人的交流等を魅力とする回答が多いと示している。一方で、少ないグループは明確な旅行目的を持つ割合が低く、物理的体験を魅力とする回答が多いと示している。以上のことから、子ども時代の旅行経験の多少によって現在の家族旅行の観光行動や旅行意欲に差異が生じることが明らかになっている。さらに、中村²⁾は「渡航経験」が少なくな

るほど、「海外旅行へ低関心」が強くなるほど、「阻害要因」の知覚の程度が高くなる関係が見られることも示された。本研究では、以上のような知見を活かしつつ、子ども時代の旅行経験が大学生の海外旅行意欲に与える影響の基礎的研究を行う。

3. 調査概要

大学生の海外旅行に対する阻害要因知覚程度の把握、海外旅行意欲に与える影響を明らかにする目的で、東北工業大学の学生に調査を行った。具体的には、東北工業大学の全学年の学生に WEB アンケートをメール配信し回答してもらった。メール配信は 2019 年 1 月 11 日に実施した。配信数は 3161 人、回収数は 321 人であり、回収率は 10.2%となった。

4. 海外旅行の関心

はじめに、海外旅行に興味があるかを尋ねたところ、5.とてもあてはまるという回答の割合が 39%で 1 番多く、4.あてはまるが 28%でこれに続いた(図-1)。合わせて、67%と過半数を超える学生が海外旅行に興味を持っていることが分かった。過去の国内旅行頻度についてクロス集計を行った結果、5.と 4.を回答した人は高校卒業までの国内旅行頻度が年に 1~2 回程度で、1.全くあてはまらない、2.あてはまらないと回答した人は年に 1 回未満が多く、海外旅行に興味がある人ほど過去に国内旅行の実施頻度が高い傾向が見られた。

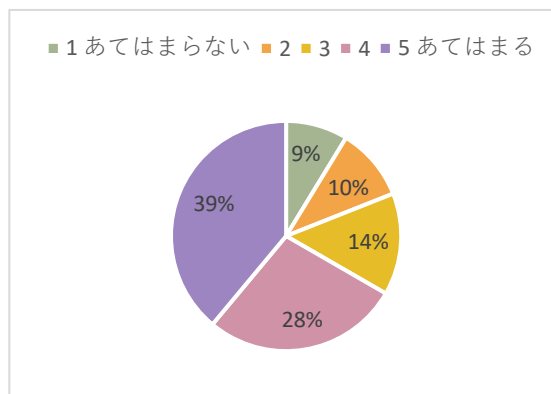


図-1 海外旅行に興味があるか

キーワード アウトバウンド観光, 旅行経験, 阻害要因

連絡先 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1 東北工業大学 TEL 022-305-3533

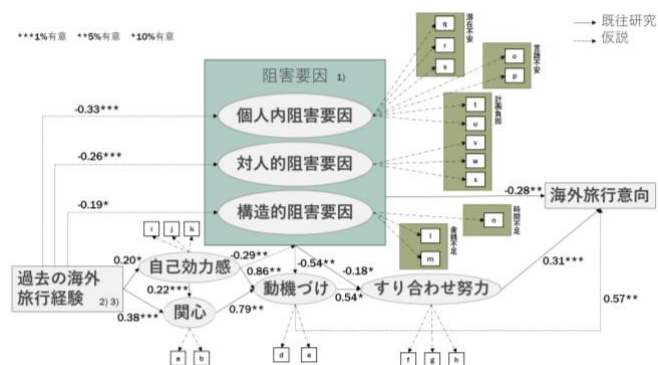


図-2 海外旅行経験と阻害要因の分析結果^{2) 3)}

5. 海外旅行意向と阻害要因

次に、高校卒業まで海外旅行に行った経験が一度でもある人とない人の海外旅行意向と阻害要因の知覚についてクロス集計を行った。海外旅行意向と阻害要因の知覚はそれぞれ5件法とし、阻害要因は個人内、対人的、構造的に分類し13項目について質問した(表-1)。海外旅行経験がある人とない人との海外旅行意向の差を見ると、ある人は5.とてもあてはまるの回答数が多く、ない人と有意な差が見られた。さらに阻害要因の知覚についての差を見ると、ある人は13項目のうち平均して5.とてもあてはまると4.あてはまるの回答はなく、ない人は5項目で平均して5.と4.の回答があり、阻害要因の知覚程度が高かったことが明らかになった。

また、高校卒業までの海外旅行経験が大学生の海外旅行意欲に与える影響について共分散構造分析を行った(図-2)。「過去の海外旅行経験」から各「阻害要因」への係数は大きくないが負の影響を与えていることが示された。そして「過去の海外旅行経験」による「自己効力感」「関心」から「動機づけ」への係数が大きく有意な影響を与えていることが示された。さらに「動機づけ」から「海外旅行意向」への係数も高く有意な影響を与えることが示された。

6. まとめ

本研究では、高校卒業までの海外旅行経験が大学生の海外旅行に対する阻害要因の知覚程度を低くすることが明らかになり、なかでも「言語不安」「滞在不安」の知覚程度に海外旅行経験がある人となない人とに大きな差があることが明らかになった。また、高校卒業までの国内旅行頻度が多いと回答した人は、海外旅行への「関心」を高く持っている人が多く、これに続いて海外旅行でやりたいことがあると回答した人が多いことが

示され、「動機づけ」に有意な影響を与えることが明らかになった。

参考文献

- 1) 森下晶美：子ども時代の旅行経験別に見る旅行意欲の差異とその要因—家族旅行に関するアンケート調査から—, 13号, pp.65-71, 2015
- 2) 中村哲：海外旅行の阻害要因の実証分析—日本の若者の海外旅行離れを対象として—玉川大学観光学部紀要, 第1号, pp.1-22, 2013
- 3) 西村幸子・高井典子・中村哲：海外旅行の実施頻度に関する動態的循環モデル, 同志社商学, 第65巻, 第4号

表-1 質問項目

過去の海外旅行経験
・次の各時期に、何回「海外旅行」に行きましたか(修学旅行、学校行事等は除く) 【小学生・中学生・高校生】
自己効力感
(i)旅行中にやってみたいことを自分から進んで実現するほうだ (j)旅行先で困ったとき、自分で周囲に助けを呼べるほう (k)旅行中にトラブルが起きたとき、慌てずに自分で対処できるほうだ
関心
(a)海外旅行に興味がある (b)他にやりたいことが多く、海外旅行に関心が向かない
動機づけ
(d)海外旅行に行きたいと思わせるものがある (e)海外旅行を通じてやりたいことがある
すり合わせ努力
(f)旅行に行くためなら、時間を作ったり、時期を調整したりするほうだ (g)旅行に行くためなら、予算に見合うように内容や行先を調整したりするほうだ (h)旅行に行くためなら、お金をやりくりするほうだ
海外旅行意向
(c)2020 年末までに一度でも海外旅行に行きたい
阻害要因(海外旅行について)
(l)旅行に行くために、まとまったお金を用意することに支障がある (m)旅行の費用は高すぎる (n)旅行に行くだけのまとまった時間を取りにくい (o)外国語を話すのに不安がある (p)・外国人とのコミュニケーションに不安がある (q)・旅行先を選ぶ際に、飲食に不安がある国は抵抗がある (r)旅行先を選ぶ際に、衛生面に不安がある国は抵抗がある (s)旅行先を選ぶ際に、治安に不安がある国は抵抗がある (t)旅行の計画を立てるのが面倒である (u)旅行の準備・手続きをすることが面倒である (v)同行者とのスケジュールを合わせることが難しい (w)自分から誰かを旅行に誘おうと思わない (x)一緒に旅行に行く人がいない